



殺虫剤

石原ガゼット粒剤



殺虫剤分類

1A

農林水産省登録	第21046号
有効成分	カルボスルファン（化管法 1種）・・・・・・3.0%
性状	青色細粒
人畜毒性	劇物
有効年限	5年
包装	1kg × 12袋 3kg × 8袋

特長

✓ 甲虫目、カメムシ目、ハエ目、チョウ目、アザミウマ目など幅広い害虫に有効で、水稻の初期害虫などの主要害虫を同時防除できます。

✓ 浸透移行性にすぐれていますので、地上部を加害するイネミズゾウムシ（成虫）やコナガ、アブラムシ類、アザミウマなどにも優れた効果を示します。

✓ 土壌散布により、コガネムシ類幼虫、ハリガネムシなどの土壌害虫にも優れた効果があります。

適用作物と使用方法

作物名	適用害虫名	10アール当り使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	カルボスルファンを含む農薬の総使用回数	
水稲 (箱育苗)	イネミズゾウムシ イネドロオイムシ イネゾウムシ イネヒメハモグリバエ	育苗箱 (30×60×3cm使用土壌約5ℓ) 1箱当り40～70g	移植前3日～移植当日	1回	育苗箱の苗の上から均一に散布する。	1回	
	ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ	育苗箱 (30×60×3cm使用土壌約5ℓ) 1箱当り50～70g					
	イネシガラセンチュウ	育苗箱 (30×60×3cm使用土壌約5ℓ) 1箱当り70g					
さとうきび	ハリガネムシ メイチュウ類 コガネムシ類幼虫	6～9kg	植付時		植溝土壌混和	3回以内 (植付時の土壌混和は1回以内、培土時の土壌混和は1回以内、散布は1回以内)	
			培土時		株元土壌混和		
ピーマン	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ	1～2g/株	定植時		3回以内	育苗期後半：株元散布 定植時：株元散布又は植穴土壌混和 作条土壌混和	1回
たばこ	アブラムシ類	1g/株	育苗期後半				
きく		6kg	定植時	株元散布又は植穴土壌混和		3回以内	
		2g/株 (但し、18kg/10aまで)		全面土壌混和			
	ネグサレセンチュウ ミカンキイロアザミウマ	30kg 9kg		生育期			株元散布
ストック	コナガ	18kg 9kg	定植時	1回	全面土壌混和	1回	
シクラメン	キンケクチフトゾウムシ幼虫	1～2g/株	生育期		株元散布		
ペゴニア		1～2g/株 (但し、18kg/10aまで)					
プリムラ		1～2g/株					
	キンケクチフトゾウムシ成虫	0.5～2g/株					
つつじ類	ツツジゲンバイ	10g/株 (但し、18kg/10aまで)		定植時及び生育期	2回以内	定植時：全面土壌混和及び株元土壌混和 生育期：株元土壌混和	2回以内
	コガネムシ類	9kg					
イチイ	キンケクチフトゾウムシ幼虫	2g/株	生育期	1回	株元散布	1回	
芝	コガネムシ類 シバオサゾウムシ成虫 ケラ	5～10kg	発生初期	3回以内	散布	3回以内	

作物名	使用目的	10アール当り使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	カルボスルファンを含む農薬の総使用回数
芝	ミミズの糞塚形成防止	5～10kg	糞塚形成時	3回以内	散布	3回以内
	オオハサミムシの脱出孔形成防止		脱出孔形成時			

※本内容は2020年10月16日付の登録内容に基づいています。

効果・薬害等の注意事項

一般的注意事項

- 本剤を使用した場合には、ベンフラカルブを含む剤を使用しないこと。
- 使用量に合わせ秤量し、使い切ること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

作物別注意事項

水稻（箱育苗）に使用する場合

- 移植当日に使用する場合は、育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植すること。移植1～3日前に使用する場合には、散布後通常の管理を移植日まで行うこと。
- 育苗箱の土壌表面が乾燥していて、苗を田植機にのせる際、薬剤落下のおそれがある場合は散布後灌水する。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗の場合には薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
- 稲苗の葉が濡れていると薬害を生じやすいので散布直前の灌水はしないこと。
- 本田が砂質土壌の水田や、漏水田、未熟堆肥多用田の場合は使用をさけること。
- 処理苗を移植した水田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので代かきは丁寧に行い、移植後田面が露出しないように注意すること。移植後は直ちに湛水し極端な浅水、深水はさけること。また深植にならないように注意すること。
- 移植後低温が続く苗の活着遅延が予測される場合は使用をさけること。また移植後極端な高温が続くと予測される場合も使用をさけること。
- 本剤処理により時に葉先枯れなどの薬害を生じることもあるので、所定の使用量、使用方法を厳守すること。

畑作に使用する場合

- 定植時に植穴処理する場合には、植付苗の根に薬剤が直接ふれると薬害を生じるおそれがあるので軽く土壌と混和すること。
- 土壌が極度に乾燥している時は、処理後灌水すること。
- ピーマンに使用する場合、過剰に施用すると、下葉の黄変、葉縁の黄化等の薬害を生じるので、使用量を誤らないように注意すること。

安全使用上の注意事項



- 医薬用外劇物。取扱いには十分注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- 本剤による中毒に対しては動物実験で硫酸アトロピン製剤の投与が有効であると報告されている。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- 散布の際は、農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするこ
と。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや
立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

魚毒性等

- ・水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- ・水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- ・本剤は、ニジマスに対して特に影響を及ぼすので注意すること。
- ・散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

保管

直射日光をさけ、鍵のかかるなるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。